

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	英語総合 I	
科目基礎情報							
科目番号	0027			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	総合イノベーション工学専攻（エネルギー・機能創成コース）			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	1		
教科書/教材	Kazuo Ishiguro, Never Let Me Go; Main版（Faber and Faber）						
担当教員	古野 百合						
到達目標							
英文学作品を精読しながら読解力を強化するとともに、登場人物の心理や物語のテーマについて理解し、それについて英語で論じることが出来る。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取り、その内容を把握を他に適用することができる。		自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取り、その内容を把握することができる。		自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取り、その内容を把握することができない。	
評価項目2		関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取り、その内容を把握を他に適用することができる。		関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取り、その内容を把握することができる。		関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取り、その内容を把握することができない。	
評価項目3		それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明、解釈の適用ができる。		それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明し、解釈できる。		それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明も、解釈もできない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	英語 I ～ V で修得した英語力を活用し、より高度な英語のリーディング力を養うことを目指す。具体的にはKazuo Ishiguroの小説 Never Let Me Go を読み、語彙力や読解力を強化し、情報を正確に読み取る力を養う。また、朗読を聞くことによってリスニング力を強化し、適宜ワークシートを使いながら物語の内容把握や登場人物の心理を確認し、作品について英語で論じることが出来る力を養う。英文学作品を鑑賞することによって教養を高め、豊かな人間性を育むことを目指す。						
授業の進め方・方法	全ての授業内容は、学習・教育到達目標（A）＜視野＞[JABEE基準 1 (2)(a)]および（C）＜英語＞[JABEE基準 1(2)(f)]に対応する。						
注意点	<到達目標の評価方法と基準>下記「授業計画」の「到達目標」1 ～ 6 の習得の度合いを中間試験、期末試験、小テスト、課題により評価する。評価における各「到達目標」の重みの目安は1 ～ 5 を80%、6 を20%とする。試験問題や課題のレベルは、百点法により60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように設定する。 <学業成績の評価方法および評価基準>中間、期末の2回の試験の結果を70%、小テストや課題（発表を含む）の結果を30%として評価する。ただし、試験で60点以上に達していない者には再試験を課すこともあり、再試験の成績が本試験の成績を上回った場合には、60点を上限として本試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。 <単位修得要件>学業成績で60点以上を取得すること。 <あらかじめ要求される基礎知識の範囲>TOEIC 400点程度、COCET2600修了程度の語彙知識 <レポートなど> 授業に関する小テスト及び課題を課す。 <備考>授業は講義、及び発表形式で行う。発表者を中心に作品の要約、内容理解を深める。毎回の予習（分からない英単語を調べ、英文を読んで理解しておくこと）および復習を行い、授業において積極的に発言する姿勢が望まれる。授業には必ず英和辞典（電子辞書でも可）を用意すること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Introduction（授業の進め方および概要説明）		授業の進め方を理解できる。（受講者の作品ページの担当分けをし、発表方法について理解する。）		
		2週	Chapter 1-2		1. 作品の内容やそのテーマを理解できる。 2. 作品で使われている単語や熟語などの表現を理解できる。 3. 作品に関する英語の問いに対して適切な表現で答えられる。 4. 作品の一部を正しい発音で音読することができる。 5. 作品の内容についての議論に積極的に参加し、意見を英語で書くことができる。		
		3週	Chapter 3-4		上記 1 ～ 5.		
		4週	Chapter 5-6		上記 1 ～ 5.		
		5週	Chapter 7-8		上記 1 ～ 5.		
		6週	Chapter 9-10		上記 1 ～ 5.		
		7週	Chapter 11、前半の復習		上記 1 ～ 5.		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	Chapter 12-13		上記 1 ～ 5.		
		10週	Chapter 14-15		上記 1 ～ 5.		
		11週	Chapter 16-17		上記 1 ～ 5.		
		12週	Chapter 18-19		上記 1 ～ 5.		
		13週	Chapter 20-21		上記 1 ～ 5.		
		14週	Chapter 22-23		上記 1 ～ 5.		
		15週	後半のまとめと復習		上記 1 ～ 5.		

		16週	学年末試験		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合					
		試験	課題等		合計
総合評価割合		70	30		100
配点		70	30		100